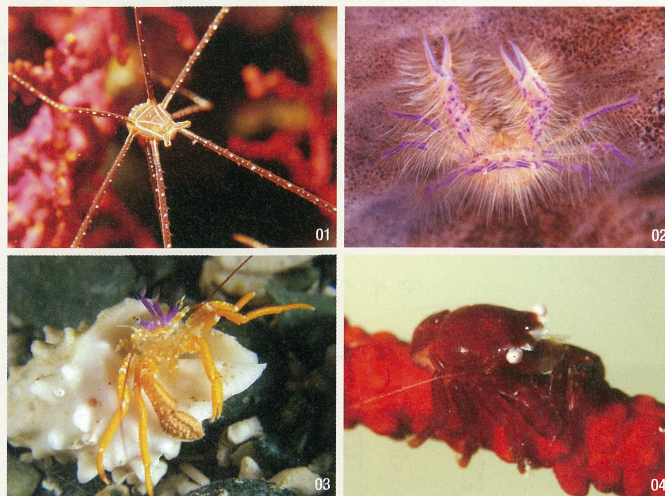


広瀬研だより ちょっとトリビアな無脊椎動物の話

Text=Rie Nakano

Photo=Kaoru Imagawa, Kotaro Tanaka, Naoki Shirakawa

第6回
ダイバーと
研究者のコラボが
生物研究を
前進させる



(01) *Chirostylus stellaris* Osawa, 2007 和名はホシゾラワラエビ。大澤博士が記載された。(02) サグロシオリエビ。長らくピンクスクワットロプスターと呼ばれていた。和名は奥野先生との共著で提唱。(03) ティーダゼブラヤドカリ。この和名も大澤さんが名付け親。(04) *Lissoporcellana flagellicola* Osawa & Fujita, 2005 ムチャギカクレカニダマシ。琉球大学の藤田喜久博士との共著で記載。カニダマシ類はソフトコーラルに共生するタイプと磯の転石裏に棲むタイプがいる。どちらも海中の細かな餌を濾して食う。(05) アナモリチュウコシオリエビ。愛称ロポコン。「穴を守る、でアナモリです」(大澤さん)。写真01,04=今川郁(Ocean Blue) 02,05=田中幸太郎(ダイビングクラブ・コンカラ) 03=白川直樹(ドルフィンキック)

広瀬研メンバーの密かな楽しみはゼミの後のお茶会である。研究室には日本各地、時には海外のお菓子が常時何種類もキープされていて、それを食べながらゆんたく(沖縄方言で「世間話」)をする。ゼミの緊張感から解放されてのリラックスタイムだ。



05

ある日のお茶会でのこと。お菓子をつまみつつ、次はいつ潜りに行くかをウミクワガタの太田さんと内肛動物の杉山さんと相談していると、隣で届いたばかりの『月刊ダイバー』を見ていた琉大非常勤講師の大澤正幸博士が「あっ、僕が記載したやつが載ってる」と言われた。

「どれですか？」
「これです」

私の頭の中では大澤さんはカニダマシの専門家と分類されていた。カニダマシというのはカニにそっくりなコシオリエビの仲間だ。しかし大澤さんの指さす先にはヤドカリが！
「このヤドカリの記載を大澤さんが？」
「カニダマシの分類だけではないんですね！」

と我々は口々に驚きの声をあげた(或る意味失礼ですよ)のだが、
「ええ、まあ……」

大澤さんは照れくさそうにしているだけである。

普段からご自分の研究について、あまりお話にならない方なのだ。そこでしつこく聞いたところ、カニダマシだけではなく、コシオリエビやヤドカリの記載や標準和名の提唱も数多くされてきた方だ、ということ

がわかった。約10年前に、ムギワラエビとしてダイバーに知られていたものが、実際はオルトマンワラエビという別種であることを見抜いたのは大澤さんだった、ということもわかった。先月号にご登場いただいた千葉県立中央博物館分館海の博物館の奥野淳児先生との共同研究も多い。

「日本で、エビ・カニ・ヤドカリの仲間の分類を専門にしておられるのは、大澤さんと奥野さん、他に何名くらいおられるのですか？」

「10人くらいですね」

これまた意外である。ウミウシと違って甲殻類は食用になるものも多い。食用になる動物の研究者は多いと私は思い込んでいた。

「分類など基礎研究をしている人は少ないですよ。海洋生物全般にそうですけどね……。でも最近はダイバーの皆さんが協力してくれるので、状況は好転しています。以前はドレッジ(底引き)や磯歩きで採集した標本が多くて、ダイ

バーが潜る水深の甲殻類は、あまり研究が進んでいなかったんですよ」

「潜ってよく見る、いわゆる普通種に未記載種(学名がついていない種)がけっこうあるのは、そんな理由があったんですね」

「生物の同定(何者かを調べる)や記載(学名のない種に学名をつける)をするためには、写真と標本の両方が必要なのですが、標本をとるのが難しいようなら写真だけでも情報になります。標本だけだと保管している間に色が抜けてしまって、生きている時の色がわからなくなってしまうことがありますから」

水深10～30mの、いわゆるダイバー水深の生物の研究は、ダイバーと研究者のコラボレーションによって前に進む。潜って「？」な生物がいたら写真を撮らねば。なお甲殻類の分類のための撮影は「できるだけ全身が写るように。斜め前方からではなくて真上から」と大澤さん。その際は撮影日、撮影地とハビタット(生息環境)、水深の記録も忘れずに！



オルトマンワラエビ。ダイバー水深に生息する。対してムギワラエビは深海性。形状も異なる。「オルトマンとムギワラでは歩脚(足)の先端のツメの大きさが違います。それから甲羅の肩あたりの棘。あるのがムギワラ、ないのがオルトマンです」(大澤さん) 写真=田中幸太郎

文=中野理枝

Profile>> '87年OW取得。'96年あたりからウミウシに目覚める。小野篤司さんの『ウミウシガイドブック1』『沖縄のウミウシ』を編集。「本州のウミウシ」を編集・執筆。'09年4月、琉球大学大学院 理工学研究科 博士後期課程に進学。雑誌・書籍の編集や執筆の仕事の続けながら広瀬研究室にてウミウシ研究に邁進中。

監修=広瀬裕一
琉球大学理学部海洋自然科学科教授・理学博士

Profile>> '91年理学博士取得。その後3つの大学を転々として、97年より琉球大学に勤務。今年はずごく忙しくてなかなか採集に出られない。春の大潮が一番好きなのに……。

▶ www.geocities.jp/lissoclinum/TunicataJ